

(4) 広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点モデル事業報告

広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点事業推進協議会
(広島県立生涯学習センター)

1. 趣 旨

エル・ネット「オープンカレッジ」事業において、学習機会の提供と受講の促進を図るため、県内の市町と連携したライブラリーの整備と貸し出しシステムについての研究を行う。また、学習の成果として、学習ボランティアがエル・ネット「オープンカレッジ」を活用した講座等を自主的に企画し運営する方策について調査研究を行う。

2. 3年計画の策定

広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点モデル事業を展開するにあたり、イベント的な事業ではなく息の長い事業展開が可能となるよう、エル・ネットを活用した学習を展開するボランティアグループを育成し、そのボランティアグループの活動の支援を展開することにより、県内に受講のネットワークが広がることを目的として3年計画を策定した。

各年度の主な事業計画のテーマは、次のとおりである。

年 度	事 業 計 画 の テ ー マ
平成15年度	受講及びライブラリーのシステムづくりとボランティアの育成
平成16年度	システムの拡大と定着化、ボランティア活動の支援
平成17年度	ボランティア活動の定着化に向けての支援

エル・ネット「オープンカレッジ」の学習機会提供の拡大と日常的な受講を推進するためには、受講者が「オープンカレッジ」を活用するという意識を高めることが必要であり、受講者による受講者のための「オープンカレッジ」公開講座の展開が必要であると考え、3年間の事業の計画を策定した。

3年間の事業推進計画内容は、次のとおりである。

年度	事業推進内容
平成15年度	○広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点事業推進協議会の設置 ○講座受信専用スペースの設置 ○放送テープライブラリー化（録画装置の整備、ライブラリーの保管） ○県民への貸し出し ○サテライト会場（東広島市中央図書館）の整備と運用 ○学習ボランティアの募集と育成 ○県内市町村への広報と連携 ○広島市まちづくり市民交流プラザとの協働と協同
平成16年度	○学習ボランティアによる、オープンカレッジを活用したイベントの開催 ○サテライト会場の増設とネットワーク ○県内市町村への広報と連携 ○広島市まちづくり市民交流プラザとの協働と協同
平成17年度	○学習ボランティアによる講座受信専用スペースの活用 ○学習ボランティア養成と活動支援 ○学習ボランティアによるオープンカレッジを活用したイベントの開催 ○県内市町への広報と連携（県民への広報活動） ○広島市まちづくり市民交流プラザとの協働と協同

3. 平成16年度各事業の詳細

今年度は、システムづくりの年にあたる。65ページに広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点モデル事業のイメージ図を示す。

広島県立生涯学習センターは、広島県内の拠点施設として、各市町との連携、サテライト会場との連携や協働・協同により事業を展開し、県民への学習機会の提供と受講の促進を図る。

今年度事業の実施に当たり、広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点事業推進協議会を組織し、第1回の会議を10月28日（木）に実施した。協議会では、広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点事業3か年事業計画及び昨年度事業の概要の報告と今年度事業概要を事務局より説明の後、今年度事業全般について協議を行い、各委員より様々な意見が出された。意見の概要は、次のとおりである。

○「オープンカレッジ」を活用した講座の開講について

- ・講座の開講にあたっては、現代的課題に対応したテーマ設定が必要である。
- ・学習ニーズとしては、「歴史」に関する講座が高い。殊に、地域性に富むものが望ましいが、「オープンカレッジ」の中になかなか見当たらない。現状では、「歴史」に関する講座の開講に限って言えば、結果として、講師招聘による講座と「オープンカレッジ」の講座との組合せに頼らざるを得ないのではないか。

○講座の企画・運営について

- ・講座を企画する実施主体が、運営等について相談できるようなコーディネーター的な仕組み・機能が必要ではないか。
- ・地域住民と行政との間で中間リーダー（コーディネーター）を養成し、学習者が活用できるような仕組みが必要である。
- ・講師招聘に伴う経費については、学習ニーズに対応した講座であれば、受益者負担でも運営可能ではないか。
- ・地域住民のニーズを把握できるのは、公民館職員である。今後は、公民館職員を対象とした研修等の中で「オープンカレッジ」を取り上げていくことが必要である。

今年度事業を進めていく上で、各委員より提示された意見を念頭に取組んだ。

次に、各事業の詳細について説明する。

(1) 学習ボランティアによる、オープンカレッジを活用したイベントの開催

平成16年4月、昨年度のエル・ネット「オープンカレッジ」拠点モデル事業の中で実施した、ボランティア養成講座の受講生を中心として学習ボランティア「楽々カレッジ広島」が発足した。

この「楽々カレッジ広島」が中心となって、「オープンカレッジ」を活用した自主企画講座を講師を招聘して実施した。会場は、「オープンカレッジ」の周知にも質するようにと、サテライト会場に位置づけられている東広島市中央公民館とした。

○講座開講日時：平成17年1月23日（日）10:00～16:30

○受講者数：40名

○講座内容

時 間	講 座 内 容 ・ 講 師
10:00～12:00	第1部（「オープンカレッジ」録画DVD放映） 講義「京の町家とお町内」 講師 仏教大学 八木 透 教授
12:00～13:00	昼休憩
13:00～15:00	第2部 講演「西条・四日市を中心とした歴史の風景」 講師 前東広島市文化財センター 所長 松村 昌彦
15:00～15:15	休憩・移動
15:15～16:30	第3部 臨地講座「宿場町西条の史跡見学」 講師 東広島市ボランティアガイドの会

○講座の成果

受講者から、居住地最寄の受信可能施設についての問合せが数件寄せられるなど、エル・ネット「オープンカレッジ」の周知について、一定の成果があった。

また、サテライト会場である東広島市中央公民館で開講したことで、ライブラリー化しているエル・ネット「オープンカレッジ」のリストの閲覧希望も寄せられた。今後、県内各地域で、こうした自主企画講座を開講することで、「オープンカレッジ」のみな

らず、エル・ネット全般にわたっての県民の認知度は上がっていくと思われる。

なお、「楽々カレッジ広島」は広島市を中心に呉市・廿日市市などに居住するメンバーで構成されており、隔月で定例会を開催している。平成16年4月の発足以来の自主企画講座等は次のとおりである。

- 5月16日（日） 広島市まちづくり市民交流プラザ開館二周年記念イベント
自主企画講座「日本文化の源流を探る“出雲神話に見られる日本文化”」
(録画DVDの放映)

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ

- 7月2日（金） 「社会人のための大学活用フェア'04」
自主企画講座 第1部 「中高年の社会参加ー生涯学習と地域教育ー」
(録画DVDの放映)

第2部 「探訪歴史学のすすめ」(外部講師を招いての講座)

チラシ配布・パネル展示

場所：広島市まちづくり市民交流プラザ



受付



講座風景

- 9月3日（金）・4日（土） 「広島県健康福祉祭」
ミニ講座 「京の町家とお町内」(録画DVDの放映)
パネル展示
場所：広島県民文化センター



講座風景



講座風景

○10月30日（土）・31日（日） 「東広島市生涯学習フェスティバル」
 チラシ配布・パネル展示
 東広島市中央公民館ブースで録画DVDの放映
 場所：東広島市運動公園体育館

（２）サテライト会場の増設とネットワーク

サテライト会場として、今年度新たに、東広島市中央公民館を増設することができた。

また、学習ボランティア「楽々カレッジ広島」の自主企画講座を県内各地で実施することで、周辺住民に対する「オープンカレッジ」についての認知が見込めるだけでなく、当該地域における受信施設に対する認知、受信施設の環境整備にも資すると思われる。

「楽々カレッジ広島」では今年度中、ないし来年度早々にもいくつかの市町において自主企画講座実施の予定があり、さらに今後、自主企画講座の実施に向けて、受信施設を持つ施設を中心に働きかけを進めていくこととしている。

自主企画講座実施の効果としては、周辺地域住民や施設職員から、「オープンカレッジ」の録画テープの貸出し・視聴についての問合せが寄せられるなど、広報において有効であることがわかった。今後、さらに各種講座を実施し、周辺の受信施設等への協力体制を築いていきたい。

東広島市中央公民館における録画DVDのライブラリー化については、昨年度に引き続き実施した。



東広島市中央公民館（サテライト会場）



広島市まちづくり市民交流プラザ（サテライト会場）

〔各会場の利用状況〕（平成17年1月31日現在）

会 場 名	受講者数	DVD受講	貸出数
広島県立生涯学習センター	155名	12件	18件
広島市まちづくり市民交流プラザ	516名	35件	—
東広島市中央公民館	21名	5件	6件

(3) 県内市町への広報と連携

昨年度に引き続き、県内全ての公民館、図書館等の社会教育施設をはじめ、市町教育委員会に向けて、チラシ・ポスターを配布し、掲示・配架による広報を行った。

また、サテライト会場である広島市まちづくり市民交流プラザ及び東広島市中央公館においては、市広報紙への掲載を中心に市民への周知を図るとともに、独自にライブラリー一覧の作成・配布や各施設を会場として、イベントを開催するなど、積極的な広報に努めた。

さらに、広島県高等教育機関協議会と連携を図り、協議会主催の講座におけるチラシ等の配布やこれまでの講座受講者へのダイレクトメールによる広報活動を行った。



広島県立生涯学習センター

(4) 広島市まちづくり市民交流プラザとの協働と協同

《協働》(ボランティアの育成と活動支援)

広島市まちづくり市民交流プラザを「楽々カレッジ広島」の活動拠点として位置づけ、定例会の開催をはじめ、開館二周年記念イベントでの自主企画講座の開講など積極的に活動の場の提案・提供に努めた。その結果、イベント開催の度に、より受講者の立場に立った講座の企画、運営が行われるようになり、学習ボランティアとしての成長に結び付いた。

《協同》(広報とライブラリー整備)

市広報紙への掲載を中心に広報活動を展開したほか、広島市まちづくり市民交流プラザを会場として開催される各種イベントにおいて、チラシ配布・ポスター掲示による広報に努めた。

また、独自にライブラリー化に努め、市民の学習機会の確保に備えたほか、独自の番組案内等の作成などきめ細かな広報を実施した。

4. 平成16年度の成果と課題

(1) 今年度事業の成果

○学習ボランティアの自立と連携

昨年度のモデル事業の中のボランティア養成講座受講生を中心に発足した「楽々カレッジ広島」は、今年度4月の発足以来、定期的に例会をもち、イベントや自主企画講座を運営してきた。発足当初は、準備・運営に当たり、若干のとまどいをみせる会員もいたが、年度後半には、イベントの運営等において、



自主企画講座

生涯学習ボランティアグループ等の団体との連携を行うまでに至った。

また、イベント開催に当たっては、さらなる学習ボランティア募集の取組みや独自のアンケート調査を実施するなど、会員の増員、学習ニーズの把握に努めた。こうした活動は、学習ボランティアの成長の一助となることはもとより、成長した学習ボランティアの自主企画による講座数増加、より充実した講座内容の実現にもつながると思われる。そして、このことは、「オープンカレッジ」の広報にも資するものと思われる。

○サテライト会場との連携

昨年度に引き続き、サテライト会場として、主に広島市まちづくり市民交流プラザ及び東広島市教育委員会（東広島市中央公民館）との連携に努めた。

広島市まちづくり市民交流プラザにおいては、「オープンカレッジ」を活用したイベントを学習ボランティアとともに開催した。

東広島市中央公民館においては、「オープンカレッジ」の視聴スペースを常設とし、県民の学習機会の場の確保に努めたほか、生涯学習フェスティバル等の市のイベントの機会を捉え、ミニ講座を開催するなど積極的な取組みを進めた。

また、東広島市中央公民館においては、学習ボランティアの企画・運営による「オープンカレッジ」を活用した自主企画講座を「講師招聘」という形態での実施につなげ、「オープンカレッジ」を活用したイベントのあり方についての可能性を拡げたように思う。

以上のような広島市及び東広島市におけるイベント開催は、イベントに参加した県民が居住する地域におけるサテライト会場の活性化の一助ともなったものと思う。

○広報について（県内市町及び他団体）

県内の市町への広報については、従来の行政ルートにおける広報のほかに、広島県立生涯学習センターを会場として実施された様々な講座や研修会の中で、チラシや番組表等の配付に努めた結果、様々な市町やグループ・個人から「オープンカレッジ」に関する問合せが寄せられ、関心の高さが窺われた。

また、広島県高等教育機関協議会との連携により、高等教育に関心の高い県民に対し、効果的な広報ができた。

さらに、広島県生涯学習情報提供システム「ひろしままなびネット」、広島県立生涯学習センターのホームページのほか、広島県立生涯学習センターが毎月配信するメールマガジンに掲載し、広く県民に対して、広報に努めた。

（２）今年度事業の課題

○講座の企画・運営について

第1回の推進協議会において、委員より御指摘をいただいた現代的課題に対応したテーマ設定による講座の開講については、実現に結びつけることができなかった。

学習ボランティアの自主企画講座においても、「歴史」関係の講座によるものに頼る結果となった。しかしながら、「歴史」に関する講座へのニーズは依然として高く、こうした講座の開講は今後とも積極的に進めるべきであると思われると同時に、現代的課題に

即したテーマ設定による講座は、「オープンカレッジ」の新規受講者開拓にもつながると考えられ、今後の課題としたい。

○広報全般について

広報については、チラシ、ポスターの配付、ホームページ、県や市広報誌への掲載などの方法で実施したが、未だ充分とはいえない状況にある。今後とも、きめ細かな広報を継続していく必要がある。

○サテライト会場の増設について

今年度、東広島市において、学習ボランティアによる自主企画講座を実施したほか、その他は広島市でのみの開催となった。東広島市でのイベントに当たっては、広報段階から周辺の町域住民より問合せが多く寄せられた。このことは、出前講座の実施がその地域のみならず、周辺地域への広報にも資することを意味している。今後とも、様々な地域での講座を開催することで、地域住民への周知を図れるとともに、地域におけるサテライト会場の増設につながると思われる。

(3) 自主企画講座（平成17年1月23日実施）受講者アンケートの結果から

平成17年1月23日（日）に東広島市中央公民館において、学習ボランティアの自主企画講座を開講した際、受講者へのアンケート調査を実施した。その集計結果から現状の分析と今後の展望を探ってみた。

【集計結果】

(設問 1) エル・ネット「オープンカレッジ」をご存知でしたか。

① 視聴したことがある	3
② 名前だけは知っていた	8
③ 知らなかった	10

(設問 2) 今後、視聴してみたいと思いますか。

① はい	14
② いいえ	0
③ わからない	6

(設問 3) 「オープンカレッジ」を活用したイベントの運営（形態）はどのようなものかいいと思いますか。

① 録画DVD（ビデオテープ）の放映と講演の組合せ（今回の形態）	16
② 録画DVD（ビデオテープ）の放映のみ	1
③ 講演のみ	3
④ リアルタイムで視聴するのでイベントは必要ない	2

(設問 4) どのような分野の講座・講演に興味がありますか。

① 医療・医学・健康関係	6
② 産業・科学技術関係	1
③ 経済・経営関係	0
④ 芸術・文学関係	13
⑤ 歴史・民俗関係	19
⑥ 国際・言語関係	3
⑦ 福祉・介護・ボランティア関係	3
⑧ 政治・法律関係	3
⑨ スポーツ関係	1
⑩ IT関係	3
⑪ その他	0

(設問 5) あなたの年齢・性別をお聞かせください。

10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代
			1	4	11	5	

男性	13
女性	8

(設問 6) ご意見・ご感想がありましたらお書きください。

- ・ 県内各地での実施をして欲しい。(男性 60代ほか複数)
- ・ 大変興味深く受講しました。今後、学んでいきたいと思えます。(男性 60代)
- ・ 講演が良かった。(男性 70代)
- ・ DVDの中で、建物・作品等のもう少し詳しい説明があれば良かった。(女性 50代)

【各設問に対する回答からの考察】

○設問1について

未だ、広報の徹底が不十分であることが窺える。従来の広報手段・広報先に捉われず、新たな手段・広報先について検討する必要がある。

また、「名前は知っていた」との回答を寄せた受講者の割合が高い。今後、こうした県民に対して、いくつかの講座内容の紹介をチラシ・HP等に掲載するなど、受講への動機付けを図ることも検討しなければならない。

○設問2について

今回の受講が「オープンカレッジ」と初対面である受講者が多数を占める（設問1回答参照）中で、今後視聴したいとの回答者が半数を超えるという結果は、やはり広報の重要性といかに実際の受講へつなげていくのかについて検討を要すると思われる。

○設問3について

DVD（ビデオテープ）の放映のみのイベント運営では、受講者の期待に応えきれないとの結果である。やはり、講演との組合せが現時点では効果的であろう。しかし、今後、講師招聘での講演以外にもイベント運営について可能性を探っていきたい。

○設問4・5・6について

概ね、これまでの調査結果と同様の結果である。「歴史」「芸術」関係の趣向が強い。しかし、この結果は、多分に受講者の年齢構成に強く影響されているものと考えられる。こうした傾向は現状把握として、今後のイベント運営の際に考慮されるべきと考えるが、併せて、10～30代の若年層の受講者開拓も重要な検討課題であろう。そうした年代を対象とした広報、講座紹介も必要である。

また、男性の受講者数が女性のそれを上回るという結果も、これまでの調査と同じ傾向にある。若年層を対象とした広報等と同様に、女性受講者の拡大を目途とした広報のあり方を探ることも課題としたい。

○設問7について

受講者の居住地域での開催を望む声が多い。このことは、出前講座開催の期待とも捉えられるが、サテライト会場増設・ネットワーク化の可能性につなげることも可能であろう。

また、この受講を契機として、今後の自らの学びにつなげようとの回答は、「オープンカレッジ」がいわゆる「生涯学習」の入口としての役割を果たし得るとの証左といえる。このことを、受講者としての県民だけでなく、各地域の生涯学習・社会教育の行政担当者へ向けて、周知の必要性を感じる。

今後も、折に触れて、受講者への調査を実施しながら、きめ細かな県民の学習ニーズ把握に努めていきたい。

5. 平成17年度事業計画（案）

○学習ボランティアによる講座受信専用スペースの活用

「オープンカレッジ」受信・視聴スペースを、学習ボランティアの力を借りることで学習者の視点での改善につなげ、より快適で効果的な学習機会の提供の実現を期する必要がある。

○学習ボランティア養成と活動支援

今後とも学習ボランティアの養成に努めるとともに、「オープンカレッジ」を活用した学習ボランティアの企画・運営によるイベント開催への支援はもとより、さまざまな活動全般に対する支援を継続する必要がある。

○学習ボランティアによるオープンカレッジを活用したイベントの開催

積極的なイベントの開催により、学習ボランティアの自立を促すとともに、今年度実施した「講師招聘」という形態での開催のみならず、イベントの運営・開催方法について検討する必要がある。

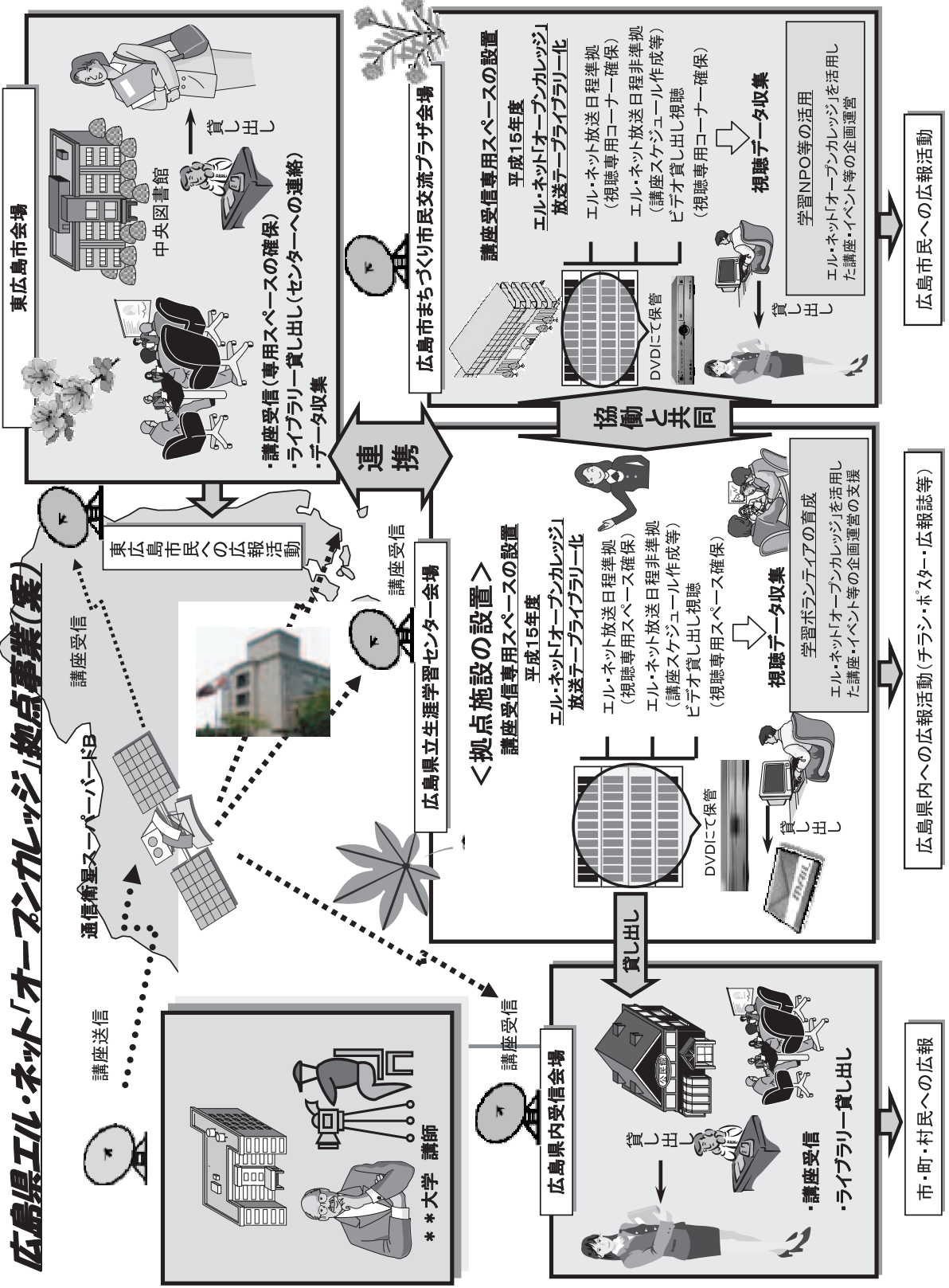
○県内市町への広報と連携（県民への広報活動）

従来型の行政ルートによる広報のみに頼ることなく、様々な機会を捉え、県内市町への広報手段の開拓に努める必要がある。

○広島市まちづくり市民交流プラザとの協働と協同

エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業の実施にあたっては、広島市まちづくり市民交流プラザとの連携が重要である。今年度以上に連携を密にし、県民・市民に対する受講機会の拡大や広報活動、ボランティア活動の支援を行っていく。

広島県エル・ネット「オープンカレッジ」拠点事業(案)



3. 地域の公開講座を開くために

連携協力委員会委員
浅井 経子

エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した講座が、各地でさまざまなかたちで開設されている。ここでは北海道千歳市、栃木県佐野市、同小山市での実践事例を紹介することにしよう。これらの市で行われた講座は、(財)文教協会の研究助成を受けて、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した遠隔学習の支援方法に関する研究会が遠隔講座における中間リーダーの役割の解明と中間リーダーのためのチェックリスト・モデルの開発を目的として行った実験講座である。

なお、ここでいう中間リーダーとは、遠隔講座において、コンテンツを提供する側（講師や大学、配信主体）と学習者の間にあって、エル・ネット「オープンカレッジ」等の遠隔講座を活用しながら独自の講座を再構成したり、その講座でコーディネーターの役割を担ったりするリーダーのことである。

(1) 千歳市、佐野市、小山市における講座の概要

千歳市、佐野市、小山市では平成15年、16年の2年間にわたって、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した講座を開設した。ここでは平成16年度の講座について取り上げることにするが、その概要は下記のようになっている。

千歳市、佐野市、小山市におけるエル・ネット「オープンカレッジ」活用講座

①北海道千歳市 エル・ネット「オープンカレッジ」 子育て講座・子育てボランティア研修会・地域子育て支援研修会『みんなで子育て!!～親と地域が手をつなごう～』

第1回講座 平成17年2月16日(水) 千歳市民文化センター

『子育てが大変なワケ・・・～子育て事情の昔と今～』

中間リーダー：竹浪瑞江（千歳市教育委員会生涯学習推進アドバイザー）

エル・ネット「オープンカレッジ」講座名（講師名）：

『トライアングル「家庭・学校・地域」子どもを育てよう』

（千葉大学教授 明石要一）

『子どもと現代家族－巣立ちへの子育てを考える－』

（松山東雲女子大学教授 塩崎千枝子）

第2回講座 平成17年2月22日(火) 千歳市民文化センター

『子どもにできること！～親として・地域として～』

中間リーダー：竹浪瑞江（千歳市教育委員会生涯学習推進アドバイザー）

エル・ネット「オープンカレッジ」講座は第1回講座と同じ

②栃木県佐野市 『パパ★ママ子育て応援セミナー パパ大好き!! ママありがとう♪』

第1回講座 平成16年12月12日(日) 佐野市犬伏地区公民館

中間リーダー：島田有之(佐野市教育委員会生涯学習課社会教育主事)

指導・助言：白澤嘉宏(栃木県教育委員会安足教育事務所ふれあい学習課
副主幹)

エル・ネット「オープンカレッジ」講座名(講師名)：

『子どもの感性を育む』絵本の持つ魅力』

(久留米信愛女学院短期大学教授 高士與市)

第2回講座 平成16年12月19日(日) 佐野市犬伏地区公民館

中間リーダー：島田有之(佐野市教育委員会生涯学習課社会教育主事)

指導・助言：白澤嘉宏(栃木県教育委員会安足教育事務所ふれあい学習課
副主幹)

エル・ネット「オープンカレッジ」講座名(講師名)：

『子どもを見る目』(久留米信愛女学院短期大学教授 関聡)

③栃木県小山市 『子育て支援リーダー講座』

第1回講座 平成17年2月21日(月) 小山市立生涯学習センター

中間リーダー：横山和平(小山市教育委員会生涯学習課社会教育主事)

指導・助言：佐山英雄(栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所
ふれあい学習課社会教育主事)

エル・ネット「オープンカレッジ」講座名(講師名)：

『子どもと食育』(前半)(久留米信愛女学院短期大学講師 山下浩子)

第2回講座 平成17年2月28日(月) 小山市立生涯学習センター

中間リーダー：横山和平(小山市教育委員会生涯学習課社会教育主事)

指導・助言：佐山英雄(栃木県教育委員会事務局下都賀教育事務所
ふれあい学習課社会教育主事)

エル・ネット「オープンカレッジ」講座名(講師名)：

『子どもと食育』(後半)(久留米信愛女学院短期大学講師 山下浩子)

(2) 講座の工夫

千歳市、佐野市、小山市ともエル・ネット「オープンカレッジ」を視聴するだけではなく、受講者の学習意欲を喚起し、学習効果を高めるため、ワークショップや体験活動を組み合わせて参加型の講座になるように工夫した。その際には、ワークショップ等を組み込んだりしたため、活用するエル・ネット「オープンカレッジ」番組の大学・講師の承諾を得て、番組の編集を行った。

千歳市の場合は、子育てボランティアの研修会として実施した。エル・ネット「オープンカレッジ」を約30分間視聴した後でワークショップを行い、さらにエル・ネット「オープンカレッジ」を約30分視聴してワークショップを行うといったように、エル・ネット「オープンカレッジ」の視聴とワークショップを各コマで2回繰り返す方法をとった。

佐野市の場合は、父親、母親、子どもが参加する家庭教育講座として実施した。第1回目は母親がエル・ネット「オープンカレッジ」を視聴してワークショップを行い、その間父親と子どもはミニ運動会とクッキーづくりを行い、最後に全員で父親と子どもがつくったクッキーを楽しむという学習プログラムとした。第2回目は、父親がエル・ネット「オープンカレッジ」を視聴してワークショップを行い、その間母親と子どもは‘我が家’の劇づくりを行い、最後に全員で劇の上演会と学習グループによる読み聞かせを楽しむという学習プログラムとした。

小山市の場合は、地域で子育て支援を行っている家庭教育オピニオンリーダーや子育て支援ボランティア、健康推進員等の資質向上を目的として講座を実施した。第1回目はアイスブレイキング→話し合い→エル・ネット「オープンカレッジ」視聴→話し合い→発表とまとめ→次回の内容説明といった順番で、第2回目はエル・ネット「オープンカレッジ」視聴→アイスブレイキング→ワークショップ→発表→まとめといった順番で学習プログラムを構成した。

(3) 講座の成果と課題

このように講座を工夫したこともあって、いずれの講座でも90～100パーセントの受講者が「大いに満足した」「少しは満足した」と回答しており、受講者の満足度は比較的高かったように思われる。

ただし、中間リーダーからは、エル・ネット「オープンカレッジ」の番組の選定、VTRの事前視聴、学習プログラムの立案などの準備がかなり大変であったという声が聞かれた。そのため、エル・ネット「オープンカレッジ」の番組を事前視聴しないでも済むように、講座の内容と流れがわかる資料がほしいという要望が出された。さらに、地域の講座でのエル・ネット「オープンカレッジ」活用を促進しようというのであれば、15分から20分ぐらいのコンテンツであることが望まれるといった要望も出された。また、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用するにあたっては、中間リーダーのためのチェックリストは役に立つということであった。

それぞれの中間リーダーが創意工夫してエル・ネット「オープンカレッジ」活用の講座づくりと講座の運営を行った実験講座では、研究のための実験を越えて、中間リーダーの企画能力や学習支援能力を高める一つの機会になったのではないかと考えられる。

講座の詳細、チェックリスト・モデル、中間リーダーの役割等については、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した遠隔学習の支援方法に関する研究会『平成16年度（財）文教協会研究助成 遠隔大学公開講座活用の学習を支援するリーダーの役割に関する実験的研究 -エル・ネット「オープンカレッジ」活用の場合- 報告書』（平成17年3月）を参照されたい。